

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名： カリキュラム・マネジメント実践部門	エントリー名： 甲府市立貢川小学校 廣瀬雅彦 平成30年度 第1回次世代リーダー育成研修			
活動名： もったいないぞ児童会活動 ～整理・充実・環境設定で目標を実現～				
解決すべき課題： <p>本校の教育目標は、「やさしく かしく たくましく」である。スクールプランの中から、「やさしく」にかかわる部分を取り上げていくと、次のようになる。</p> <p>「やさしく」にかかわる児童の実態：自分中心の考え方が多い 「やさしく」にかかわる学校経営の重点：豊かな人間性の育成（豊かな心を育む教育の充実） ☆魅力ある児童会活動の展開 ・児童会行事の創意工夫 ・あいさつ運動、ボランティア活動の推進</p> <p>自分中心の考えが多い児童がいるという実態がある中、「魅力ある児童会活動」よりも、「思い遣る心を育む児童会活動」を展開できることが、教育目標実現には必要なことであろう。その観点から活動を見ていくと、非効率的な部分や、より充実させることのできる部分が見えてくる。</p>				
目標・方針： <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td data-bbox="157 940 552 1062"> OK 高学年が下級生の面倒を見ることができる。 </td> <td data-bbox="566 940 961 1062"> GOOD! 高学年だけではなく、上級生が下級生を気遣うことができる。 </td> <td data-bbox="976 940 1436 1062"> VERY GOOD!! 休み時間に、上級生と下級生が一緒になって遊ぶことができる。 </td> </tr> </table>		OK 高学年が下級生の面倒を見ることができる。	GOOD! 高学年だけではなく、上級生が下級生を気遣うことができる。	VERY GOOD!! 休み時間に、上級生と下級生が一緒になって遊ぶことができる。
OK 高学年が下級生の面倒を見ることができる。	GOOD! 高学年だけではなく、上級生が下級生を気遣うことができる。	VERY GOOD!! 休み時間に、上級生と下級生が一緒になって遊ぶことができる。		
活動内容： ①スクールプランの変更（「魅力ある児童会活動」→「思い遣る心を育む児童会活動」） ①整理する：年間の中で、児童会活動が集中している時期がある。それぞれに活動の意図はあるが、「思いやる心を育む」という観点から整理し、つながりのある活動にしていく。（写真1） ②充実させる：ひとつひとつの活動の中で、6年生から下級生への関わりだけでなく、様々な学年同士の間が生まれるように、内容を工夫していく。（写真2） ③環境を作る：休み時間に異学年同士が関わることのできる場や活動を仕組んでいく。（写真3）				
活動の成果： ①思いやる心を育むという観点で活動を整理したことで、教育目標実現に向かう筋の通った活動となっている。 ②ひとつひとつの活動の中に異学年同士の関わりを仕組んでいくことで、上級生が自然と下級生に声をかけたり優しく接したりする姿が見られるようになった。 ③休み時間に異学年同士の関わりを仕組んだことで、上級生が下級生の教室に遊びに行ったり、外で一緒に遊んだりする姿が見られるようになった。 ④活動を精選し、充実させたことで、仕事の効率化が図られ、教師・子どもが、共に余裕を持って学校生活を行えるようになった。				
アピールポイント（アイデアや工夫）： ・ただ活動を精選するのではなく、これまでの児童会活動の特徴を受けながら、実質的な部分がより効果の上がるよう練り直した。 ・大きく派手な活動をしているわけではないが、地味でも地道にコツコツやることで、思いやる心が育つような土づくりができ、着実に教育目標の実現に向かっている。 ・教師・子ども、両方に余裕が生まれ、結果的に豊かな心を育むような環境が整っている。				

(写真1)



これまで別々の取り組みとして行っていた「月別目標」と「あいさつ運動」を一体化したり、学期ごとに行っていた「縦割り遊び」の時間を「縦割り対抗競技」として学期ごとに行ったりすることで、つながりをもたせた。

(写真2)



6年生から下級生への関わりはもちろん、異学年同士の関わりが増えるよう、全校で遊ぶ機会を作った。雨の日だけの限定プロジェクトにすることで、外で遊ぶことのできない児童の活動場所を作ることができたり、部屋での過ごし方の指導の軽減ができたりと、様々な観点から見てもプラスになるようにした。

(写真3)

七夕の日には、自由参加で、短冊を書くスペースを設けた。下級生の書いた短冊を上級生が竹にくくりつけてあげる姿がみられた。お願いごとの中身についての会話も自然と弾み、とてもいい雰囲気です。異学年同士の交流ができた。

